

複数のシリアルバスが混在したエンジン制御信号の解析

概要

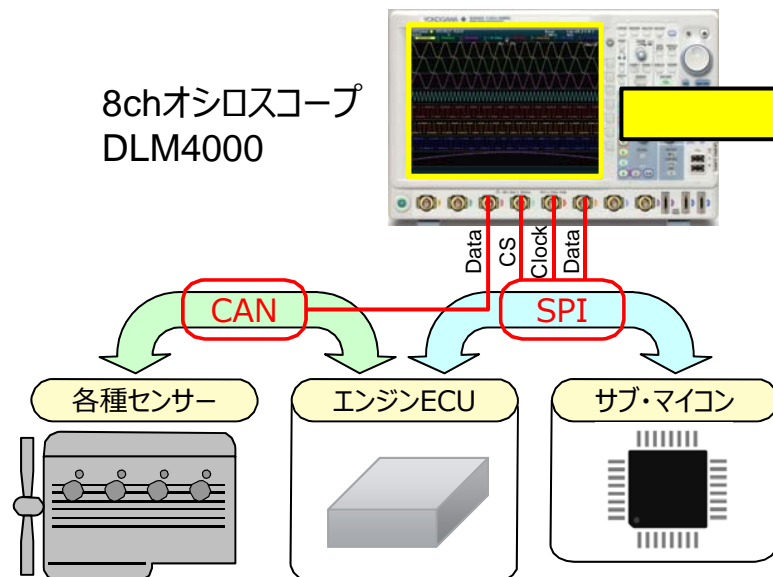
DLM2000及びDLM4000シリーズでは、最大4つのシリアルバス通信波形を同時に測定、解析することができます。

プロトコル・アナライザでは難しい信号間タイミングの詳細な解析が可能です。

アプリケーションの課題点

この例では、エンジンECUがCANバスを通じてエンジンの各種センサーと通信しており、一部はSPIバスを通じてサブ・マイコンで処理されています。

従来このようなケースでは、2台のプロトコル・アナライザをタイミングをそろえて動作させそれぞれの結果を突き合わせたり、物理層の解析用にはオシロも併用するなど、複数の機器を駆使しなければなりません。このため測定に大変手間がかかってしまい、測定結果の信頼性にも課題がありました。



特長

- DLM2000及びDLM4000シリーズでは8種のシリアルバス(CAN / CAN FD / LIN / SPI / I2C / UART / FlexRay / SENT)の中から最大**4系統のシリアルバスの同時解析**が可能。左図のCAN-SPIの組み合わせや、より複雑なシステムに対しても1台で対応できます。複数台のプロトコル・アナライザの組み合わせでは判りにくい各信号間の**詳細な時間関係の解析**にも大変有利です。
- 各種シリアルバスに対する**豊富なトリガ機能**を用意しています。エラー発生時の物理層の様子を捕捉する際などに便利にお使いいただけます。
- クラス最大級のロングメモリにより、高いサンプリングレートを保ったまま長時間の測定が可能。高いビットレートのシリアルバスを含むシステムの解析作業を大幅に効率アップできます。

